

Road to the 150th



同志社創立150周年記念座談会(2) 「同志社の一貫教育と良心を語る」

新島襄が掲げた「良心」という言葉は、同志社の教育理念の核として、150年にわたり息づいてきました。その言葉が、現在までどのように受け継がれ、一貫教育の中でどのように実践されているのか。本座談会では、同志社各校の代表者たちが集い、その実情や課題、さらに次の50年を見据えた教育のあり方について議論しました。

(中央写真 左から *肩書は2024年11月座談会実施当時)

ファシリテーター: 大久保 雅史氏 同志社一貫教育探求センター 所長 / 野田 遊氏 同志社小学校 校長
中澤 圭氏 同志社中学校・高等学校 校長 / 小原 克博氏 同志社大学 学長 / 小崎 眞氏 同志社女子大学 学長

Road to the 150th とは

「Road to the 150th」は、同志社創立150周年を記念して企画・実施される様々な事業をピックアップして、皆様にお伝えしていく同志社未来創造プロジェクト発行の広報メディアです。2025年11月29日に迎える150周年という節目を、同志社の建学の理念と共に歩んだ軌跡を振り返り、未来に向けた一歩を踏み出す機会とすべく、同志社と関わるすべての人が、同志社の過去、現在、未来についてあらためて考えるきっかけとなることを目指して作成しています。

「同志社の一貫教育と良心を語る」

小原 克博氏 同志社大学 学長／小崎 眞氏 同志社女子大学 学長／中澤 圭氏 同志社中学校・高等学校 校長
野田 遊氏 同志社小学校 校長／ファンリテーター：大久保 雅史氏 同志社一貫教育探求センター 所長

同志社大学 今出川キャンパス
同志社礼拝堂(チャペル)にて

同志社の歴史に息づく 「良心」とは何なのか

大久保所長 まず、良心教育を語っていた
だく前に、「良心」という言葉について考
えてみたいと思います。同志社大学の今出川
キャンパスにある良心碑には「良心之全身
ニ充滿シタル丈夫ノ起り来ラン事ヲ」と刻ま
れています。辞書によれば、良心とは「道
徳的な善悪をわきまえ、区別し、正しく行動
しようとする心の働き」と定義されています。
一方、小原大学長は良心学研究センターで、
西洋思想における良心の語源について「共
に知る」と述べられています。このように良
心という言葉には西洋思想と儒教的思想で
異なる解釈があります。そこで、本日は先
生方に、それぞれの解釈や考えをお伺いし、
良心教育について議論を深めていきたいと
思います。

野田小学校長(以下野田校長) 小原先生
がおっしゃった「CONSCIENCE(共に知る)」
という考え方に賛同します。私は良心とは、
異なる価値観を乗り越えて、その先にある社
会を作っていく主体性のことだと解釈してい
ます。一国の良心という言葉が示す通り、
良心はただ良い心というだけでなく、社会を

担っていくために必要な徳をもつ人たちがそ
が体现できるものだと考えます。そして社会
を作ることは、最終的に自分自身の利益に
もつながるため、「共に知る」という姿勢が
重要になるのだと思います。

中澤中学校・高等学校長(以下中澤校長)

良心という言葉は、漢字では「良心心」で
すし、英語では「CONSCIENCE」と表現
されます。新島襄が、近代化に向かう日本
でこの言葉が使われた背景には、当時の身
分制度や不自由な社会システムを乗り越えな
いと、日本は良くならないという意図が込め
られているように思います。刑罰や身分制度
に依存しない社会を築くためには、一人一
人が、内面の核となるものを育て、主体性
を持たなければなりません。新しい時代を主
体的な人間として生きるために必要なもの
が、「良心」という言葉に込められたメッセ
ージだと解釈しています。

小崎女子大学長(以下小崎学長) 私自身
はキリスト教の牧師家庭で育ちましたが「良
い人になりましょう」と言った教えに反発を
感じてきた過去があります。しかし、新島襄
の考えを学ぶ中で気づかされたのは、彼が「良
い」「悪い」という固定観念自体を問い直し
ていたのではないかとことです。
新島は退学させられた生徒たちに対しても、

深い思いを抱いていました。その姿勢は、
教育現場での「良い生徒＝教員の言うことを
聞く生徒」と言った狭い評価基準を超えた
ものです。私たちが考える「良い」「悪い」
とは何なのか。それは社会や制度から求め
られる「良さ」に囚われない、柔軟な視点
を持つことを新島は示していたのではないで
しょうか。

小原大学長(以下小原学長) 「良心」とは
何か、その意味は文脈によって変わります。
そのために、良心という言葉が用いられる際
の歴史的な文脈を押さえておくことが大事で
す。同志社が誕生した時代背景を考えると、
江戸から明治への大きな体制変化の中で、
儒教が継続して社会の基本的な価値観を支
えていました。江戸時代であれば将軍に、
明治以降であれば天皇に従うという体制が
続き、それを儒教が思想的に支えていました。
しかし、新島襄は儒教のもつ強力な磁場か
ら脱出し、新しい社会と人間を作るためにキ
リスト教主義を基本とする教育を目指しまし
た。「同志社大学設立の旨意」の中では「既
に人心を支配する能力を失うたる儒教主義」
に代わるものとして、キリスト教主義を掲げ
ています。新島は良心という言葉を慎重に
使っていました。その背景には、儒教的な
文脈で良心を理解されるリスクを避ける意図

良心とは新しい時代を動かす
ドライビングフォースである。



大久保 雅史氏 同志社一貫教育探求センター 所長

社会や制度から求められる 「良さ」に囚われない 柔軟な視点を。



小崎 眞氏 同志社女子大学 学長

があったと考えられます。良心碑に刻まれた、新島の手紙の一文「良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起リ来ラン事ヲ」は、当時の政治情勢を憂いた発言であり、教育の文脈で用いられたものではありません。前後の文脈を踏まえた正確な理解が求められるところです。さらにプロテスタントと良心の関係にも注目すべきです。宗教改革の時代、マルティン・ルターが帝国の圧力に屈せず、帝国議会で「私の良心は神の言葉に縛られている」と答弁したことが、プロテスタントの出発点となっています。この良心は国家や帝国に対峙するような力を持ち、神の言葉と一体となった信念として機能しています。こうした歴史的な文脈を踏まえ、同志社が掲げる良心の意義を再確認することが重要だと考えます。

大久保所長 私たちが一般的に使う良心というと、やはり儒教的、東洋的な意味合いがあって、人の言うことを聞くのが良い人になり、悪いことをしないのが良心だという世界に生きていますね。既存の権力であったり、政治であったり、道徳観に対して、良心という言葉を用いることで、新しい段階へと時代を動かすことができる。良心とは、ドライビングフォースのような存在であると理解しました。

目に見えない「良心」を どのように育むのか

大久保所長 これまで語られてきた良心について、共通しているのは「人が良心に従って生きる」という根幹の部分ではないかと考えています。そこで、その良心を育むために、

各学校においてどんな実践をされていますか。それによってどんな成果が生まれているかをお聞かせください。

小原学長 大学全体として良心教育を体系的にパッケージ化しているわけではありませんが、建学の精神などを学ぶ科目群として、2005年以降、「同志社科目」を設置してきました。この科目では、新島の思想、同志社初期の歴史やキリスト教の基本などを学びます。2014年には、より現代的な課題を良心の視点から考えるために「良心学」という授業を始めました。そこでは「良心」を共通のプラットフォームとして、異なる分野の先生方が協力して授業を行なってきました。2015年には、良心を学際的に研究する場として良心学研究センターを設立しました。このセンターでは『良心学入門』『良心から科学を考える』（いずれも岩波書店）など、多数の刊行物を出してきました。良心を学問的に考える土台は整いつつあると言えます。

小崎学長 女子大学では、2009年のカリキュラム改正を機に、キリスト教・同志社関係科目として、同志社の歴史や建学の精神に触れる授業を立ち上げました。これらの科目では、直接的に「良心」というキーワードを取り上げるのではなく、その背景や周辺にある事柄に触れながら、結果として良心にアクセスできる機会を提供しています。6学部11学科の全学生が履修する仕組みとなっており、10年以上が経過し安定的に運営されています。最近では、他学部・他学科の教員が集まって、一つの授業を行うリレー講義も

加わり、専門性が異なる学生たちが、共通の価値観を共有する場もできました。結果的に、見えない形で学生の成長が促されているという声も聞かれるようになり嬉しく感じています。

中澤校長 中高生の教育において、知識や技能を身につけることはもちろん大切ですが、それだけでは子どもの成長には十分ではありません。成長期の子どもが変化し、内面的に成長していくことが教育の本質だと考えています。中高教育の特徴としては、礼拝やキリスト教の授業があり、そこで新島襄の思想や聖書について学びます。こうした習慣から、意識が少しずつ変化し、言葉では表現しにくい「良心」というものが育まれていくのではないのでしょうか。ただ、良心が育ったかは、外からは見えにくいものです。それが表れるのは、生徒たちが自分以外の世界や他者と関わり、自分の意思や態度を明確にする瞬間だと思います。そのため、授業だけでなく、教室外の活動も重要です。例えば、今取り組んでいるのは、生徒が自ら興味を持った大人や専門家を探し、学校に招いたりオンラインで繋いで話を聞いたりする学習です。この活動を通して、生徒たちは他者との接し方や、自分がどのようにアプローチすれば物事が進むかを実体験として学びます。こうした経験を重ねることで、良心がじっくり醸成され、生徒が自ら立つべき場所を見つける手助けになると信じています。

野田校長 小学校では、毎日の礼拝や宗教の授業に加え、特徴的なものとして学年を超えた縦割りの活動を取り入れています。

同志社が持つ良心こそが 分断を防ぎつながりを支える力となる。



中澤 圭氏 同志社中学校・高等学校 校長

私自身の解釈としては良心とは社会を作るために、自らが主体的に行動することを指すと考えています。社会を作るとは、他者との関わりを通じて学び、自らの役割を果たすことで成り立ちます。例えば、小学校で他者との関係において我慢をしないといけない瞬間がある。下級生は上級生の振る舞いをすごいと見習ったり、上級生は下級生に見られているという自覚を持って行動します。こうしたプロセスを通じて、自分たちが社会を作っていく意識が芽生えるのだと考えています。

多様性の時代において 良心教育はどうあるべきか

大久保所長 多様性の時代が到来し、大学や高校、中学、小学校といった教育機関も、その真っ只中にいると理解しています。このような状況下で、「良心教育」が変わらない本質を持っていることは、これまでの議論で明らかになりました。しかしそれを「どう伝えるか」は、相手の変化によって表現を工夫する必要があると思います。この点について、どのような考えや方法があるか、ご意見を伺いたいと思います。

野田校長 小学校教育の場面では、子どもたちがもともと差別的な発想を持っていないことがほとんどです。彼らは「おかしいよね」と思うことがあっても、それを深刻に捉えず、共に遊ぶ素地を持っています。多様性に関しては、「認める」という発想が根底にあるべきだと考えています。性差に関する役割など、

これまで当たり前とされてきたことが誤りであるケースもあるので、その点は見直されるべき点も多いと思います。ただし、個々の意見を無条件に受け入れると、社会がバラバラになるリスクもあるため共通のルールを作る必要があると思います。多様性を認める中で、一つの方向性を持ち、共に社会を作っていく意識を醸成することが重要だと感じます。

中澤校長 ご質問を受け、非常に難しいテーマだと感じています。少し話がそれるかもしれませんが、前近代は、身分や土地、経済的条件が固定化されたような社会でした。それが同志社が誕生した近代になると、徐々にあらゆるものが柔軟性をもち始め、流動化する時代になりました。ただ現在は、それが進みすぎて、気体のようにバラバラになりつつあると危惧しています。社会が分断され、それぞれが自分の世界で完結すればいいと考える風潮が広がっているように感じます。この状況は多様性を認める過程で発生したものかもしれませんが、分断が進むのは恐ろしい話です。特に若者たちが孤立し、精神的に痩せ細っていくような状況を見ると、問題の深刻さを感じます。アメリカの大統領選後に、敗北した民主党が「私たちを分断するものよりも、共通するものを携えて」とスピーチされたことに感銘を受けましたが、分断と多様性は分けて考えることが必要だと思います。多様性を見つめつつも、つながりを保つことが重要です。同志社が根底に持つ良心こそが、そのつながりを支える力になるのではないのでしょうか。

小崎学長 女性教育の現場においても、色々

な多様性があり、それを考えることの重要性を日々感じています。学生たちの思いも多様であり、近年は特に権利主張が強くなる傾向があります。コロナ禍の影響もあるかもしれませんが、こうした主張は良い意味で人権尊重の姿勢を育みます。一方で、個人主義が行き過ぎると分断や摩擦を生むリスクもはらんでいます。それを防ぐには、つながりを重視する必要があるということです。自分の命や在り方を自分の文脈だけで捉えるのではなく、他者とのつながりの中で再構成し、再理解することが求められます。教育現場でも、学生たちが対話を通じて意見の違いを乗り越え、折り合いを見つけることが重要です。ある学生が「負ける」という言葉を使って興味深い意見を述べていました。それは単なる勝敗の話ではなく、「負けておくことで新たな関係性や間（ま）が生まれる」という考え方です。この柔軟な姿勢はまさに新島襄が大切にしていた価値観に通ずるものではないかと思います。

大久保所長 新島襄がアメリカへ渡った時、彼自身がマイノリティなんですよ。当時のアメリカ社会では、日本人自体が珍しい存在であり、その中で新島は自身を主張し、日本に帰る際には自らの思いを訴えて寄付を集めるまでになりました。このことは、我々がこれからの時代を生きる上で重要な姿勢やキーワードを示しているようにもみえます。

小原学長 「多様性」と「分断」は、現代社会を読み解く上でのキーワードです。アメリカ大統領選を例にとると、多様性を重視するリベラル層と国の伝統的価値を優先する保

守層との対立が見られます。このような分断は形を変えながら、どの国にも存在しており、社会の大きな課題となっています。この状況において、今こそ、良心の実践者が求められると考えています。良心の「共に知る」という点から解釈すると、良心を「異なる価値観をとりなす力」として理解することができます。現代ではその役割を果たすことのできる人が少なく、SNS では分断を助長する行動が多く見られます。良心を実践する力は、どの国でも求められています。もう1点、良心と多様性は密接な関係を持っているということです。良心の成熟には、自己理解を深めつつ、他者との関わりが欠かせません。自分の思い込みに安住するのではなく、他者との対話や葛藤を通して、自分自身を見直すプロセスが重要です。さらに多様性を考える際には、人間社会の枠を超え、自然界の多様性にも目を向けるべきです。生物進化の中で生まれた無限の多様性、その起源は創造者である神にまで遡ることができます。良心の成熟もまた、自己と他者に加えて、超越的な存在である神との関係性の中で育まれるものです。同志社においては多様性を単独で扱うのではなく、良心やキリスト教との関係性の中で探求することで、独自の解釈を深めていくことが可能です。同志社らしい多様性の理解と実践を展開できればと願っています。

大久保所長 小原先生のご著書には「自己と共に知る」「他者と共に知る」「神と共に知る」とありますが、私はキリスト教徒ではありません。その場合、「自己と知る」と「神と知る」を

どのように区別して考えればいいのでしょうか？

小原学長 キリスト教徒でなくても「神と共に知る」感覚は理解できると思います。例えば、かつて日本では「お天道様が見ている」という考え方がありました。人が見ていなくても、お天道様が見ているから悪いことはしない。この感覚が、自らの行動を外部から律する力として働いていました。しかし今の社会は、この感覚が薄れつつあり、バレなければ悪事を働いても構わないと考える風潮が広がっています。このような第三者的な視点を持つことは、個人の振る舞いに大きな影響を与えます。特に小学校教育では重要な要素です。子どもたちは最初、自己中心的ですが、他者との関わりを持つ中で、自分が世界の中心でないことに気づきます。この過程で、自分を外部から見る視点を身につけ、成長していきます。この外部的視点を持つことは、良心の成長と深く関係しており、人としての成熟を支える大切な要素だと考えます。

小崎学長 昔、中学の生徒が「私たちの周りに大学がある」と言っていたことがありました。子どもたちはどうしても自分たちの世界が中心だと思いがちです。しかし、外部との接点や摩擦を経験することで、ここが中心ではないと気づくきっかけが生まれます。他者や自分と異なる存在、自分に味方しない人と出会うことが、そうした気づきを促す大切な経験になると思います。

大久保所長 良心とは、何か確固たるものではなく、むしろ考え方や態度、そして「考えること」そのものを指すのではないかと理解しました。

小原学長 そうですね。良心は何か固定的な実体として考えるより、むしろ関係概念として捉えるべきです。内なる自分を知ったり、他者との関係性を深める言葉として良心を考えていくのが適切だと思います。

大久保所長 良心とはフレームワーク的な言葉ではないかと感じました。儒教ではもっと具体的な意味を持つように見えますが、西洋的な思想やキリスト教の文脈では、良心とはそうした実体ではなく、フレームワークとして存在しているのだと理解しました。

次の50年に向けて 良心と一貫教育の未来像

大久保所長 これまで良心について多くの議論がありましたが、今後50年同志社の一貫教育が良心をどのように育むべきかについて伺いたいと思います。例えば数学で考えると、小学校で足し算引き算を習い、中学校、高校、大学と進むにつれてより高度なことを目に見る形で段階的に学ぶようになります。では良心教育の場合はどうでしょうか。それぞれの成長段階で、どのように学び、どのような役割分担をすべきか。一貫教育の中で育む方法について、アイデアや考えをお聞かせください。

野田校長 先ほど小原先生がおっしゃったように、良心とは関係性の中で育まれるものであり、数学のように体系的に段階を設定して教えることは難しいと思います。特に公立学校は、受験があることもあって限られた時間で学ぶことが求められ、関係性の議論を

良心とは、異なる価値観を
乗り越えて、その先の社会を作る
主体性である。



野田 遊氏 同志社小学校 校長

二〇〇年へ向けて同志社は 良心の共同体を目指すべき



小原 克博氏 同志社大学 学長

深く体感できないのが現状です。一方同志社の場合、長い教育のスパンがあり、時間をかけて悩んだり間違ったりしながら成長できる環境があります。私自身も中学から同志社で学び、多くのことを経験しました。これを意図的にカリキュラムとして提供できるかはわかりませんが、同志社の教育環境が自分の生き方や良心を深める機会を多く提供していることは確かです。

大久保所長 私もコミュニケーションの授業で、人が他者とどのように関わるかを考える機会があります。最初は家族という小さなコミュニティから始まり、幼稚園では地域、小学校ではさらに広いコミュニティへと世界が徐々に広がっていきます。同志社では教育の段階が進むにつれて、多様性が少しずつ加わり、ソースがゆっくり混ざっていくように関係性が深まっていくと感じました。

中澤校長 次の50年を考えると、社会はさらに大きく変化するでしょう。50年前と今を比べれば、当時にはなかった若者の感情もあると思います。例えば今はSNSの普及により「良心はどこにあるのか」と問いたくなるやりとりが見受けられる一方で、50年後にはSNSそのものが存在しない、全く異なる世界になっているかもしれません。だからこそ、野田先生もおっしゃったように良心について長い目で取り組む必要があると考えます。子どもたちには、広い視野を持ってほしいと思います。しかしそれは「今日から広い視野を持とう」と思っても、簡単に得られるものではありません。むしろ異なる世代や、立場の人々と交わる経験を通じて身につくものです。こう

したつながりの中で、自分というものを形成し、分断を防ぎ、悲劇を起こさない社会を目指すことが大切です。これまで続けてきた家族のあり方や、社会の価値観も、同じ形では維持されないかも知れませんが、その根底にあるものを意識的に次世代に受け継ぐことが、今後ますます重要になると感じます。

小崎学長 同志社らしさは、一貫教育の中で多様な経験を共有し、失敗を許容しあう環境があるからこそ培われるものだと思います。その関係は、卒業後国内外の友人たちとも繋がりを保っており、ネットワークの広がりには素晴らしいと折に触れ実感しています。私が女子中高でも教鞭をとる機会を与えられて思うのは、同志社の四中高が持つ横のつながりをさらに活かせば、一貫教育の価値をさらに高められるのではないかとことです。女子教育についても、同志社の重要な役割の一つであると考えています。女子大学も含め、一貫教育の中でどのように発展させていくかを模索しつつ、各学校との協力を深め、クラブ活動やワークショップ、野外活動など積極的に計画することが、さらに充実した教育環境の実現につながるのではないのでしょうか。

小原学長 今後50年の展望を考えるにあたり、これまで同志社の一貫教育がどのような形で運営されてきたか振り返ると、意識せずに我々がやってきたのがキリスト教主義教育です。特に各学校で毎日のように礼拝が行われ、これは教室外で同じ時間と場所を共有する体験として非常に重要な役割を果たしてきました。この体験は、卒業後も同窓生が集まり、賛美歌を歌うだけで若き日の記憶を

呼び起こすなど、生きた記憶として残り続いています。こうした礼拝の時間が、見えない形で一貫教育の背骨になっていると思います。この価値を再確認することは大切です。200年に向けた展望として、同志社は「良心の共同体」になるべきだと考えます。これは、各学校が自立した共同体でありながら、枠を超えて連携し、「共に知る」ことを実践することで達成されます。共に知るとは、自分が安住する場所から一歩踏み出し、新たな出会いや学びを得ることで実践されます。それがなされれば、同志社は一貫教育を通じて、構成員一人ひとりが「良心の共同体」の大切な担い手であることを実感できる場になることでしょう。それが、次の50年で目指すべきところではないかと思います。

大久保所長 最後に小原先生から素晴らしいまとめをいただきましたので、私からこれ以上申し上げることはありません。「良心の共同体」というキーワードは非常に素晴らしいものであり、関係性の構築や、枠を超えて一歩外に踏み出す姿勢そのものが、良心の表れであると感じました。この良心という考え方を同志社の特色として今後も積極的に発信し、同志社の良心とは何かを広く伝えていければと思います。引き続き皆様のご協力をお願いいたします。どうもありがとうございました。

同志社創立150周年記念事業報告（2022～2023年度実施）



すべての事業は同志社創立150周年記念ウェブサイトで詳細をご覧ください。

また、(*)のある事業は動画をご覧ください。（肩書を含めた内容は、すべて当時のものです。）

<https://150th.doshisha.ed.jp/project-fact/>

同志社の繋がり輪の強化・拡大



安中市と連携協定締結（記念講演と地元中学生対象の陸上教室）

日程：2023年7月17日（月）／場所：群馬県安中市役所、新島学園グラウンド

創立者の新島襄が文化教育の領域で深い影響を及ぼしてきた群馬県安中市とのさらなる連携の促進に向けて包括連携協定を締結しました。同日午後には協定締結記念として本井 康博氏（元同志社大学神学部教授）と北京オリンピック男子4×100mリレー銀メダリストの朝原宣治氏（1995年大学商学部卒業）による講演を実施、また朝原氏のスポーツイベント（陸上教室）を開催しました。以降毎年、安中市で安中・同志社 新島講演会を学校法人新島学園の共催で開催しています。



全同志社人がつなぐ150km(*)

日程：2023年11月4日（土）／場所：同志社大学京田辺キャンパス陸上競技場

約250名の同志社人が協力して総走行距離150km走破を目指しました。1500m走、4×100mリレー、小学生以下対象のかけっこ教室が行われ在校生、卒業生、教職員とその家族が力を合わせて見事目標を達成することができました。実施に際しては、同志社大学体育会陸上競技部の学生100人以上が準備から運営まで協力をいただきました。



プロジェクション・マッピング(*)

2022年度：日程：2022年11月22日（火）／場所：同志社大学今出川キャンパス

2023年度：日程：2023年12月12日（火）／場所：同志社中学校・高等学校

日程：2023年12月14日（木）／場所：同志社女子中学校・高等学校

2022年、同志社中学校の生徒がプロジェクション・マッピングを制作し、同志社大学今出川キャンパスの彰栄館、良心館に投影しました。重要文化財である彰栄館には、「同志社の歴史」をテーマにした時代ごとのキャンパスの変遷を描いた作品が、良心館には聖書やイエスキリストの降誕節にちなんだ作品が、それぞれ投影されました。2023年には、同志社中学校の生徒と同志社女子中学校・高等学校の生徒が、クリスマスをテーマにした作品をそれぞれ制作しました。それらの作品は、同志社中学校・高等学校のグレイス・チャペルと同志社女子中学校・高等学校の静和館に、投影されました。



同志社創立150周年記念トークショー

日程：2023年11月29日（水）／場所：同志社大学同志社礼拝堂

「卒業後の可能性は無限大！ーわたしたちが理系からマスコミへ進んだ理由ー」という演題で、榎 太一助教（同志社大学ハリス理化学研究所）、山本 健太氏（日本テレビ放送網株式会社アナウンサー）、横田 舞氏（株式会社毎日放送報道情報局報道センター記者）の3名が在学生対象のトークショーを開催しました。最後には、参加した学生や生徒からの質問があり、榎助教と二人の先輩が優しく丁寧に答えてくださいました。

良心教育の浸透と拡散・発展



同志社人による写真&メッセージ企画

同志社の良心教育をアピールするために、『あなたにとっての良心とは』をテーマに、同志社の各学校の学生・生徒・児童、卒業生、教職員からコメントいただき、同志社創立150周年記念ホームページの特設ページに掲載しました。書（習字）や漫画、写真などで、表現した方もおられます。約200名の同志社人のメッセージをご覧ください。

Road to the 150th



同志社・新島かるた

同志社国際学院初等部6年生が描いた絵をもとに同志社大学漫画研究会の学生がリライトしてかるたの絵札を制作しました。子どもたちが、遊びを通じて同志社や新島襄に親しみを持つことができることを願っています。同志社生協や同志社エンタープライズのオンラインショップなどで購入できます。



同志社オリジナル賛美歌(*)

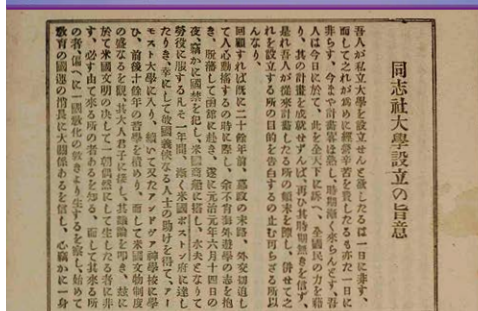
2022年11月、園児から学生、卒業生までが一緒に歌うことができる同志社独自の賛美歌を制作しました。歌詞は公募を行い、応募のあった69作品から同志社大学商学部2年の堀之内涼さんの作品が選ばれ、同志社女子大学学芸学部音楽学科の成田和子教授が作曲しました。同志社オリジナル賛美歌PV(*)を同志社学生聖歌隊と同志社グリークラブの合唱、同志社中学校・高等学校佐川淳教諭によるパイプオルガン演奏で作製しました。



同志社手話(*)

協力:同志社大学学生支援センターSDA室

これまで、式典や重要な行事などの中で使われている「新島襄」「良心教育」「倜儻不羈」にあたる統一された手話がありませんでした。この度、卒業生の協力を得て、新島襄並びに新島の思いを表現するこの3つの言葉について手話を作成しました。



同志社大学設立の旨意(抜粋)の多言語化(英語、中国語、韓国語)

1888(明治21)年、新島襄は20をこえる新聞、雑誌に「同志社大学設立の旨意」を公表して大学設立への協力をよびかけました。前半で同志社諸学校開設に至る経緯をかたり、後半で今なぜその上に大学が必要なのか、いかなる大学であるべきかを論じた名文です。この度、設立の旨意(抜粋)を英語、中国語、韓国語に翻訳し、HPにて公表しました。また、子ども版(日・英)と合わせてご覧いただけます。



同志社ウェディング(*)

日程:2023年9月・11月/場所:同志社大学同志社クラーク記念館

コロナ禍やその他様々な理由で結婚式を挙げられなかった方や同志社ウェディングへの強い気持ちをお持ちの方を対象に公募し、27組の応募があり、4組を無償で招待しました。司式は同志社大学キリスト教文化センター森田喜基准教授により執り行われ、同志社女子中学校・高等学校の恩師の列席や同志社大学の恩師からの色紙のプレゼントなどのサプライズがありました。



同志社創立150周年記念イベント Doshisha New Day2023(*)

日程:2023年11月29日(水)/場所:同志社大学 寒梅館ハーディーホール

Doshisha New Day(DND)とは「同志社の未来をつくるための特別な1日」です。2024年までの毎年創立記念日である11月29日に開催しました。朝原宣治氏(北京オリンピック銀メダリスト/同志社大学スポーツ医科学研究センター客員教授/1995年大学商学部卒業)と田中希実氏(陸上競技選手/2022年大学スポーツ健康科学部卒業)による対談、同志社大学応援団による演舞が披露されました。